

経営比較分析表（令和4年度決算）

山形県 金山町

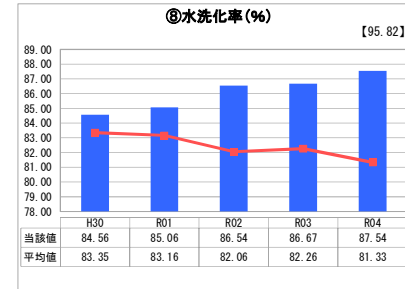
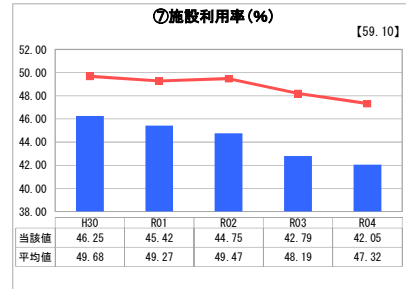
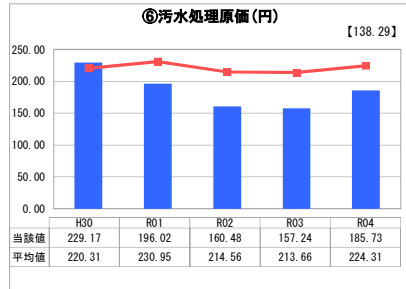
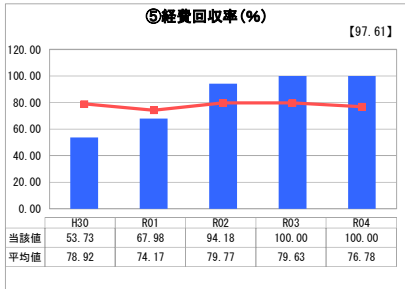
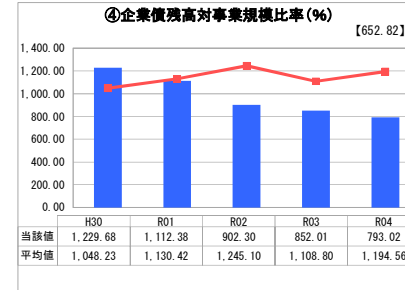
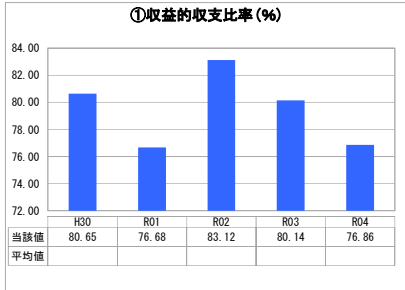
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	公共下水道	Cd2	非設置
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	有収率 (%)	1か月20m ³ 当たり取立料金 (円)
-	該当数値なし	40.50	86.86	3,740

人口 (人)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)
4,981	161.67	30.81
処理区域内人口 (人)	処理区域面積 (km ²)	処理区域内人口密度 (人/km ²)
2,007	0.90	2,230.00

グラフ凡例

- 当該団体値 (当該値)
- 類似団体平均値 (平均値)
- 【】 令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

公共下水道会計は、現行料金収入だけでは維持管理費用の財源が不足するため、一般会計からの繰入金金を充てている状況である。

令和元年10月に使用料の見直しを行ったことにより、一時的に収益的収支比率及び経費回収率共に改善が見られたが、各種計画策定業務などの増額により指標が悪化している状況である。今後も収益増加のため、公共下水道への加入促進とともに、使用料を段階的に適正水準となるよう改定を実施し、併せて収納対策を講じていく必要がある。

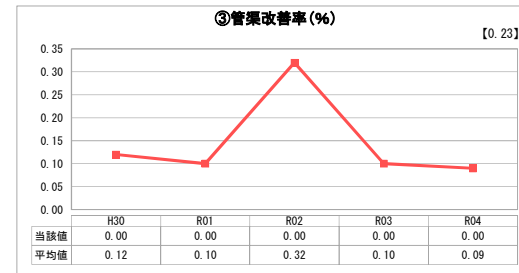
2. 老朽化の状況について

公共下水道処理施設は、平成13年度末に供用開始されたため老朽化の進行度は低い。

しかし、マンホールや管渠の耐震化等が必要であるため、ストックマネジメント計画の改定にあわせて施設の機能診断を実施し、施設の更新計画を作成する必要がある。

処理場については、電機設備の耐用年数を経過したものを優先的に、下水道ストックマネジメント計画に基づき機械設備も更新していく必要がある。

2. 老朽化の状況



全体総括

公共下水道事業は、平成13年度の供用開始から令和3年度で20年が経過し、将来的に施設設備の老朽化が進み、維持経費が増加する傾向にある。

今後、下水道ストックマネジメント支援制度を活用し、財政支援を受けて長寿命化対策を講じることで、施設の適正な管理と維持経費の抑制を図っていく。

さらに、令和6年度に公営企業会計に移行することから、中長期的な経営分析を基に、適正な料金水準の検討を実施する。併せて、下水道への加入促進を行い収益増加を図っていく。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。